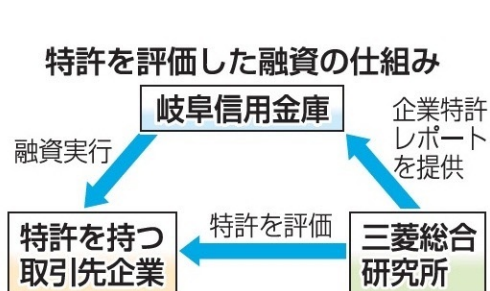


岐阜信金、需要掘り起こし

三菱総研の「企業レポート」活用 特許評価融資を強化



岐阜信用金庫は1日、三菱総合研究所(東京)と連携し、中小を中心とする取引先企業が持つ特許を評価する融資の取り扱いを始めた。三菱総研が企業の特許の経済的な価値を算出した「企業特許レポート」を活用。同金庫の既存融資商品を通じて融資を実行する。

国内の信金では初の取り組みだとい、財務諸表に表れない取引先の技術力や技術資産を評価、融資の判断材料とすることで資金需要を掘り起こす。

レポートは、特許庁に登録されている公開情報などを基

に作成。取引先の特許の内容のほか同様の特許を持つ競合企業、金額で記された特許の経済価値などが盛り込まれている。同金庫はこれまでも特許などの知的財産をもとに融資を行ってきたが、レポートの活用でさらに客観的な評価、融資を行うことができる。

融資は、成長が見込まれる環境・エネルギーや医療・介護健康関連事業など、21分野の事業を展開する企業を対象にした同金庫の融資商品「中小企業育成ファンドⅡ」で行う。

県内には自動車や航空機産業などの製造業が集積し、優れた技術を持つ企業が多く、知的財産の活用が目まぐるしく集まっている。こうした中、同金庫は知的財産を評価した融資を一層強化するため人材育成に注力する。その一環で、27日に職員向け研修を開催。県出身の小説家池井戸潤さんの作品「下町ロケット」に登場する知的財産専門の弁護士モデルとして知られる弁護士・弁理士の鮫島正洋氏らが講師を務める。